

研究種目：基盤研究(A)
研究期間：2006～2009
課題番号：18200045
研究課題名(和文) 中国内モンゴル自治区におけるモンゴル民族の生活様態と居住空間に関する総合的研究
研究課題名(英文) Comprehensive Research on Mongolian Lifestyle and Residence Space in Inner Mongolia, China
研究代表者 今井 範子(IMAI NORIKO)
奈良女子大学・生活環境学部・教授
研究者番号：30031719

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：内モンゴル モンゴル民族 生活様態 居住空間

1. 研究計画の概要

(1)モンゴル民族の居住形態ごとに、食生活、住生活、家族、コミュニティ等、11の視点から生活様態の実態を総合的に調査し、モンゴル民族の伝統的な生活様態がどのように変貌し、また、どの程度引き継がれているのかを把握する。

(2)モンゴル民族が引き継ごうとしている伝統的な生活様態とはなにか、それを可能とする物的・外的諸条件とは何かを検討し、近代化・都市化が進むなかで少数民族としての生活上のアイデンティティを保障する方策を検討する。

2. 研究の進捗状況

(1)全体調査：衣食住、家族、コミュニティ、ジェンダー等各専門分野の研究者が全員参加する総合的な調査を毎年度1回実施している。主にヒアリング・実測によるデータ収集を行っている。

①平成18年度は、草原地域であるシリングル盟で実施した。4事例に関してそれぞれの生活様態を把握した。

②平成19年度は、砂漠地域であるアラシャン盟にて実施した。6事例に関してそれぞれの生活様態を把握した。

③平成20年度は、半牧半農地域である赤峰市にて実施した。現在、成果を取りまとめ中である。

(2)個別調査：特定の専門分野について、少人数で調査を実施している。

①内モンゴル自治区の子どもの遊び空間、生活環境に関する調査

毎年度観察調査・ヒアリング調査及び現地小学校でのアンケート調査を実施し、その成果は日本家政学会誌及び子ども環境学会誌にて発表している。

②定住生活における移動住居「ゲル」の役割変化に関する調査

シリングル盟において毎年度ヒアリング及び実測調査を実施し、成果は日本建築学会計画系論文集にて発表している。

③沙漠地域における禁牧によるモンゴル民族の生活変容に関する調査

アラシャン盟において、毎年度調査を実施し、成果は国内学会大会、アジア地区家政学会国際会議で発表している。

④定住集落形成に関する調査

平成19年度よりシリングル盟にて、調査を実施し、現在も継続中である。成果は国内学会大会、アジア地区家政学会国際会議、国際家政学会学術会議(スイス)にて発表している。

⑤民間信仰に関する調査

モンゴル族の伝統的な民間信仰であるオボー祭を中心に毎年調査を実施しており、成果は平成21年7月、国際人類学民族学会誌にて発表予定である。

⑥内蒙古大学蒙古学学院における三世代アンケート調査

平成19年度、蒙古学学院の協力により実施し、成果は日本建築学会計画系論文集に投稿し、現在再査読中である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)当初の計画通り、内蒙古大学蒙古学学院との連携により、毎年度の調査計画(全

体調査・個別調査) を実行している。また、平成 20 年度には、奈良女子大学生生活環境学部及び大学院人間文化研究科と内蒙古大学蒙古学学院との間で学術交流協定を締結したため、学生交流や研究交流の機会が更に高まった。

各年度の調査結果は、学術論文、学術学会発表等で随時発表しており、今後も国内外での発表の機会を活用し、発表する予定である。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 全体調査

平成 21 年 8 月に、内モンゴル自治区ホロンバイル市において、実施予定である。当初の計画では、モンゴル国において実施する予定であったが、治安面、コーディネーターの有無等を考慮し、内モンゴル自治区内での調査を実施することとした。ホロンバイル市はロシアとも国境を接し、また草原も豊かな地域である。さらには森林地帯も広がっており、モンゴル族の中でもブリアート系や、また別の少数民族が多い地域でもある。このような特徴を踏まえて、内モンゴル自治区におけるモンゴル族の生活様態を把握するために、適切な調査地であると判断した。

(2) 個別調査

① 定住集落形成に関する調査

平成 21 年 5 月に、内モンゴル自治区シリントン盟にて実施予定である。これまでの調査を踏まえ、ヒアリングの補足調査及び、集落全体の実測調査を実施する。

② 民間信仰に関する調査

平成 21 年 6 月に、内モンゴル自治区シリントン盟にて実施予定である。年に 1 度開催されるオボー祭について、前年度とは異なる地域での観察・ヒアリング調査を実施する。

③ 沙漠地域における禁牧によるモンゴル民族の生活変容に関する調査

平成 21 年夏季に実施予定である。これまでの成果を踏まえ、政策実施後の生活変容についてとらえる。

(3) 発表

① 国際人類学民族学学会議 (中国・昆明)

平成 21 年 7 月、モンゴル民族の生活様態、民間信仰、子どもの生活の変化などについて発表する。

② アジア地区家政学会国際会議 (インド)

平成 21 年 12 月、発表予定である。

③ 個別調査について、日本建築学会計画系論文集に投稿予定である。

④ 全体調査について、奈良女子大学家政学会誌に投稿予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 姫茹・中山徹・室崎生子・教敦格日勒・今井範子・野村理恵・咏梅：中国・内モンゴル自治区における「逆留守子ども」の生活実態に関する研究—シリントン盟の東ウジュムチン旗を事例として—, 子ども環境学研究 vol. 4, No. 3, pp. 48-55, 2008, 査読有
- ② 野村理恵・中山徹・今井範子・室崎生子・姫茹・咏梅：定住生活における移動住居ゲルの利用実態と用途変化—中国・内モンゴル自治区シリントン盟の牧畜民を事例として—, 日本建築学会計画系論文集第 73 巻第 630 号, pp. 1735-1742, 2008, 査読有 (ほか 3 報)

[学会発表] (計 18 件)

- ① Rie NOMURA, Toru NAKAYAMA, Noriko IMAI, Yaru, Yongmei: The Change of the lifestyles by domiciliation in Inner Mongolia, China, The 21th World Congress of International Federation for Home Economics, 2008. 7, Luzern, Switzerland
- ② 咏梅・中山徹・今井範子・野村理恵・姫茹：禁牧政策による生活様態の変化による影響—中国内モンゴルアラシャン盟を事例として—, 日本建築学会大会(中国), 2008. 9, 広島・広島大学
- ③ 姫茹, 中山徹, 室崎生子, 今井範子, 野村理恵, 咏梅：中国・内モンゴルにおける三世代の子どもの頃の遊びと生活の変化, 日本家政学会第 60 回大会, 2008. 5, 東京・日本女子大学
- ④ Miyuki KUROZAKI ・Noriko IMAI 他: The change in the lifestyle of Mongolians at Inner Mongolia Autonomous Region in China -From the survey of the meadow land of Xilinhot City, The 14th Biennial International Congress of Asian Regional Association for Home Economics, 2007. 8, KUALALUMPUR, MALAYSIA (ほか 14 報)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]